

人間の素晴らしさを

皆さんに伝えたい

(対談) 仏像ガール×戸松 義晴

父親の死を通して

戸松 義晴 (以下・戸松)

本日はお忙しい中、全日本仏教会にお越しいただき、ありがとうございます。

仏像ガール (以下・仏像ガール)

こちらこそありがとうございます。

戸松 この度は、全日本仏教会機関誌「全仏」の表紙に写真を提供していただくということで、お話を伺わせていただきます。

仏像ガール 宜しくお願いします。

戸松 私が最初に感じましたのは上智大学で学ばれたということと、どちらかというところはキリスト教ですね。

仏像ガール そうですね。

戸松 なぜ仏像に興味を持たれたのかを、お話しただければ。

仏像ガール 大きなきっかけは、



中学生で父の死を経験した仏像ガール。死をきっかけに自身のいのちを見つめ、現在は仏像を通して人間の素晴らしさを伝える仕事をされています。仏像や人間に対しての思いをお話いただきました。(今月号より表紙写真を提供して頂きました。)



仏像ガール 1979年神奈川県出身。上智大学比較文化学部卒業。現在、仏像ナビゲーター、奈良国立博物館文化大使(本名ではなく、仏像ガールとして活動)。著書に「感じる・観る・もっと近づく仏像の本(山と渓谷社)」等。

戸松 義晴 1963年東京都出身。ハーバード大学神学校において、神学修士取得。現在、浄土宗心光院住職、全日本仏教会事務局長格。著書に「Never Die Alone」「仏教ターミナルケアエイズホスピス寺院から学ぶもの」等。

中学三年生で、

大好きだった父

を亡くしたことで

でした。私が小学

六年生のとき、

父は余命三ヶ月

と宣告されました。

人の死を経験

したことがな

かった私は、誰

かが死ぬことが

悲しいことなの

か、つらいこと

なのがよくわか

りませんでした。

結局、それから

三年後に他界し

ました。生前使

っていたベッド

に横たわった父

の身体に触れた

とき、とても冷

たく、硬かった

ことを覚えてい

ます。人の死を

初めて体験しま

した。

戸松 なるほど。

仏像ガール それまで、いのちと

いうものをすごく簡単に思ってい

たんです。簡単に「死んじやいた

いー」って思ったり。

でも、大好きだった父の死を目

の前にしたら「死んだらどこにく

んだらう」「いのちってなんだら

う」という思いが出てきました。

それで、死ぬことが怖くなってし

まったんです。その怖さからどう

にか逃れられないかと考え、お寺

に行くようになりました。

戸松 それはご葬儀のお寺さんに

仏像ガール いえ、自宅近くの鎌

倉のお寺がほとんどでした。様々

な本を読んだことがきっかけで、

お寺をまわりはじめたんです。

ヒンドゥー教のお話などを読ん

で、世界には死ぬことを怖がらな

い人たちがいることを知りました。

死を怖いと思っていた私にとって

こんなにも安らぎを与えてくれる

宗教のちからを感じたのです。日

本は無宗教だと勝手に思いこんで

いたのですが、仏教があると気づ

き、お寺を巡るようになりました。

知識が全くなくても、お寺に足を運び始めると、ほっとする感覚になりますね。

戸松 お寺の境内に入るとそういう感覚になりますね。

仏像ガール そうなんです。自分の思いが、ふわっと解かれるような感覚というか。

戸松 なるほど。

仏像ガール そして高校生のとき京都の三十三間堂に訪れました。

お堂の中に足を踏み入れて、観音様が並んでいる光景を目の当たりにしたとき、涙が溢れて止まらなかつたんです。感動しました。仏像や仏教のことを何も知らないのに、人間ってすごいと思ったんです。

戸松 人間ってすごいと思ったんですね。仏像ではなくて。

仏像ガール そうなんです。自分

と同じ日本人によって、観音様が

千体も並ぶ光景がつけられた。そ

れを守ってきた人、押してきた人

がいて、今私が目にするのがで

きる。すべてが奇跡のように見え

て、本当に感動したんです。

仏像は生きている

戸松 お話を聞いてみると、お父

様の死を通して、仏像と出遇い、

人間のちからに感動されたのです

ね。そういう中で、写真を撮られ

ていますが、仏像を写真で表現す

るにあたって、どのようなことを

思っていますか。

仏像ガール 写真は一つの方法な

んです。お話をするように、仏像

に対して私の推く思いが、そのま

ま表現されたいなと思います。

私にとつての仏像の魅力というのは

人間のちからなんです。

戸松 先程出てきた「人間ってす

ごい」という感動ですね。

仏像ガール そうです。仏像とい

うのは、対面したときに、感動し

たり、鳥肌がたつたり、圧倒され

るものだと思うんですが、元々は

人間がつくったということ、人

間が大切に守ってこなければ、人

存在しないんですよ。人間がい

たからこそ今遇うことができる。

それはどんな仏像にも共通するこ

とだと思っております。守ってきた

人の思い、人間の思いが込められ

仏像によって救われる人がたくさ

んいると思います。

また、お堂の中の仏様や、道ば

たにいらつしやるお地藏様にカメ

ラを向けたとき、お守りしてきた

人々の思いも伝えてい

たらいいなと思います。

お供えのお花だったり

地域の人たちが濡れない

ようにつくった屋根

だったり。あるがまま

の空気を伝えたいです

ね。

戸松 仏像に込められ

た、仏像をつくってき

た人間の素晴らしさを

皆さんにお伝えしたい

と。

仏像ガール そうです

ね。仏像って素晴らし

いって思うのと同じ時に

その仏像を大切にしてい

きた私たち人間だって素晴らしい

よ、優しいよって心から思います。

(紙面にはインタビューの一部を掲載しております。続きはHPをこ

覧下さい) <http://www.jfb.co.jp/>



仏像ガール そうです。やっぱり

戸松 仏像は生きていると。